

## 大丈沢

1988年7月31日

七入橋近くの実川林道ゲートから歩き始め、25分で大丈沢橋に着く。さっそく遡行開始。30分程遡行すると、右岸にブナの原生林が見えてきた。さらに30分程進むと、伐採用の林道と伐採従事者用の休憩小屋が見えてきた。

流木と倒木に埋まる沢はさらに奥へと続き、15mの「紫紺の滝」の手前まで続く。紫紺の滝は右岸から高捲く。そのすぐ上には、4mの滝が続いていた。

3時間近く遡行した頃から、沢はゆるい傾斜となり、50cm～1m程のミズバショウが現われ始める。そのまま源頭部の湿地帯となり、沢ははっきりしなくなる。10時、遡行終了。

(記・)



【タイム】 七入(6:45)→大丈沢橋(7:10)→遡行終了(10:00)

## 上曲沢

1988年7月31日

L

台

天気晴。道行沢ぞいにつけられた登山道を進み、上曲沢に入る。水量比は3:2で、上曲沢の方が多い。

平凡な沢を進み、ナメを過ぎると初めての滝。15mはあろうか。左岸を捲いてゆくと、4m、そして20mの釜のある滝が現われる。3つの滝を一気に捲いて沢に戻る。ここは左岸が崩れて、明るく開けていた。

まもなく5m、3m、4m、2mと連続して滝が現われる。1/2.5万地図の滝の記号のある所である。空から見ると一つの大きな滝に見えたのであろうか。落差こそ小さいが、連続した滝はどんどん高度をかせいでくれる。下の2つは直登、上の2つは右岸を捲いて通過する。

なおも小滝が続くが、左右からの枝沢を過ぎるたびに、目に見えて水量が減ってくる。このあたりからサンショウウオを捕獲する「ドウ」や、ジュースの空缶など、人間の気配が感じられてくる。

地図を見て支沢に入り、沼山峠の休憩所をめざす。ヤブはこくなり、真っ黒なぬかるみに足をとられながらつめてゆく。沢から離れヤブに入る。すぐ発電機の